

TOPIX

修了生が語る ぶぎん経営幹部養成塾の魅力

ぶぎん地域経済研究所では、次代を切り拓く経営幹部の育成を目的に、2011年度から毎年「ぶぎん経営幹部養成塾」（以下、養成塾）を開講（共催：武蔵野銀行）しており、これまでに延べ440名にのぼる修了生を輩出しています。2026年度は「次世代業績基盤確立に向けてのリリースンシップ」をテーマに、昨年度に続いて、仮想企業の経営幹部となり、事業計画を立案し他社と競い合う企業戦略シミュレーションを採り入れるなど、実践しながら経営手法を幅広く学びます。

また、グループディスカッションや1泊2日での合宿研修、交流会などを通じ、さまざまな考え方や情報を吸収できる全7回にわたるカリキュラムを用意しています。

前号と今号では、昨年度、本養成塾を修了された2人にぶぎん経営幹部養成塾の魅力について話を伺いました。第2回は大村商事株式会社の渡邊さんをご紹介します。



「2026年度ぶぎん経営幹部養成塾」は2026年10月開講予定です。

2025 年度 修了生

大村商事 株式会社

総務部総務課 課長 渡邊 幸枝 氏



—— 御社の事業内容・ビジネスモデルについて教えてください。

当社は、一般家庭や事業所から排出される廃棄物の収集運搬・処分を中心に、食品廃棄物や草木の堆肥化など、リサイクル事業も力を入れています。資源循環型の取り組みを進め、地域に根ざした「おもしろ地域 SDGs」を実践しています。

私は現在、総務課の課長として、採用・労務・経費管理など幅広い業務を担いながら、女性が活躍できる環境づくりにも注力しています。

—— 受講する前、養成塾にはどのようなイメージを持っていましたか。

受講前は「養成塾」という名称から敷居の高さを感じ、上位管理職ばかりの場合のではと不安がありました。初回の会場では男性と比べて女性が少なかったことも緊張を強めました。また、初対面の方ばかりだったこともあり、皆さんがとても貫禄のある“社長”のように見えてしまうほどでした。しかし、名刺交換や自己紹介を交わすうちに雰囲気が和らぎ、幅広い役職や業種の方が参加していることを知り、自分も安心して学べる場だと感じられるようになりました。

—— 特に印象に残った講座やプログラムはありますか。

特に印象に残ったのは、人的資本経営や女性活躍をテーマにした講座です。女性講師による実務に寄り添った内容が分かりやすく、人材育成や働きやすい環境づくりの重要性を改めて実感しました。当社では女性ドライバーや作業員が増えており、「女性に対応してくれると安心する」という声も多く、会社の強みになっています。一方で、女性社員をどのように育成し役職者へと導くかは私自身の課題であり、講座で得た示唆は今後の女性管理職育成を考える上で大きな参考になりました。

—— 全体の講義を通して、最も勉強になったことは

何でしょうか。

全体を通して最も勉強になったのは、さまざまな役職や業種の方々と直接意見交換ができたことです。普段の業務では他社の管理職と深く話す機会が少ないため、部長職や支社長クラスの方々の考え方に触れ、自分の課題がより明確になりました。また、社内ではロールモデルが見えにくい環境にある中、養成塾で活躍する女性管理職の方々と出会えたことは大きな刺激でした。「自分もこうなりたい」と思える存在に出会えたことが、何よりの収穫でした。

—— この養成塾はどのような方に向いていると思いますか。

この養成塾は、業種や役職に関わらず視野を広げたい方に向いていると感じました。特に、女性の参加者がまだ多くない現状を踏まえると、女性管理職やこれから管理職を目指す方には大きな学びの場になります。半年間同じメンバーと学ぶことで関係性が深まり、単発研修では得られない成長実感を得られます。私自身も視座が高まり、外部の学びに挑戦したいという意欲が強くなりました。

—— 今後参加を検討される方々へのメッセージをお願いします。

養成塾に参加したことで、「もっと学びたい」「もっと意見交換したい」という思いが強まり、外部の勉強会やセミナーにも積極的に参加するようになりました。この前向きな変化は、参加を迷っている方にこそ伝えたい大きな収穫です。不安を抱えるのは自然なことですが、一歩踏み出すことで初めて得られる学びがあります。さまざまな業種・年代の方と意見交換する中で視野が広がり、仕事への向き合い方にも良い変化が生まれます。また、20代の若い参加者の積極的な姿勢にも強い刺激を受けました。迷われている方には、ぜひ一歩踏み出してほしいと思います。参加してよかったと心から感じられる場です。